**第１回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会　会議録**

|  |  |
| --- | --- |
| **１．日　　時** | 令和4年10月11日（火）14:00～16:20 |
| **２．場　　所** | 印西市役所庁舎会議棟2階　204会議室 |
| **３．出席委員** | ◎髙橋克委員、○榎美香委員、西山純子委員、三石宏委員、伊藤哲之委員、西田裕子委員、岸上誠委員、本田正幸委員（◎委員長、○副委員長） |
| **４．欠席委員** | 早川博史委員 |
| **５．事務局** | 大木教育長生涯学習課　鈴木課長、石川係長、根本主任学芸員 |
| **６．支援業務受託者** | 株式会社丹青社 |
| **７．傍聴人** | 計２名 |
| **８．会議内容** | １ 開 会　２ 委嘱状交付３ 教育長挨拶４ 委員紹介・事務局紹介５ 委員長及び副委員長選出６ 会議録署名委員の選出７ 趣旨説明８ 議事（１） 基本計画の概要および検討の進め方９ 報告（１）先進事例の紹介10 意見交換（１）歴史文化施設のめざすべき方向性について11 閉会 |
| **９．会議録** |  |
| １ 開 会、２ 委嘱状交付、３ 教育長挨拶、４ 委員紹介・事務局紹介、５ 委員長及び副委員長選出、６ 会議録署名委員の選出 |
| ７ 趣旨説明 |  |
| 事務局 ： | ※追加資料「新たな歴史文化施設の必要性」について説明 |
| 委員　　　： | 文化庁が進めている「文化財保存活用地域計画」への印西市の取組状況やお考えがあれば教えてほしい。 |
| 事務局 ： | まだ計画策定に至っていない。市の総合計画の中で、資料の収蔵場所の集約化が課題として挙げられていることから、まずは施設整備の検討に入った。歴史文化施設の計画作成の過程で地域の特性を把握することで、今後の地域計画策定に応用できるのではないかと考えている。 |
| 委員　　　： | 文化庁の方針を受けて慌てて実行するのではなく、印西市の特徴を活かした主体的な計画を策定し、その後「文化財保存活用地域計画」の制度の活用を考えたほうが正しい筋道である。 |
| 委員　　　： | 市内の展示・収蔵施設は４館あるが、職員体制、利用者数を教えてほしい。 |
| 事務局 ： | 印西市立印旛歴史民俗資料館（資料館）は館長１名、学芸員資格を持った再任用職員１名で運営している。土日はシルバー人材センターに受付を依頼したり、文化係から応援を受けたりしている。来館者数は令和３年度で年間約800名。印西市立木下交流の杜歴史資料センター（資料センター）は、展示室はあるが市史編纂業務が主な業務である。所長１名、学芸員資格者１名、事務職１名、再任用職員１名、市史編纂の作業をする会計年度職（パート）２名で運営している。年間来館者数は2,800名程度である。印西市立資料整理作業所（作業所）は資料センターができる前は市史編纂業務をしていたが、現在は老朽化のため資料保管庫として運用している。印西市立印旛医科器械歴史資料館（医科器械資料館）は企画政策課が所管しており、指定管理者が運営をしている。週3日の開館で、来館者数は年間300名程度と聞いている。 |
| 委員　　　： | すべての施設の収蔵点数はどれくらいか。 |
| 事務局 ： | 現在、収蔵資料の点数を精査しており、次回委員会で資料を提示する。 |
| 委員　　　： | 市民アンケート等で新たな歴史文化施設を求めるような声を収集したのか。 |
| 事務局 ： | 市のアクションプランと市の特命事項が事業検討の背景となる。市民アンケートは基本計画策定の中で行う予定である。 |
| ８ 議事 |
| （１）基本計画の概要および検討の進め方 |
| 事務局 ： | ※資料1－1、1－2について説明 |
| 委員　　　： | 木下まち育て塾では木下の活性化をめざして、蔵をまちかど博物館にするなどの活動をしている。印西市の遺すべき文化財は多数あり、ただ集めて並べるだけでなく、その中で「目玉」をつくることが重要である。また、まずは立地の検討をしたほうがよいのではないか。ニュータウンの公園の中につくれば集客できるが、そこに何があるのか。たとえば木下には天然記念物の木下貝層があり、木下交流の杜公園のローラーすべり台が子供に大人気で、木下駅前の歴史跡地（岩井家住宅主屋）などもある。だが、民間の土地に建設するとなると土地購入する必要もある。 |
| 事務局 ： | 資料1-1では基本計画の骨組みを示した。本日ご承認いただければ、これに沿って進めていきたい。検討の順番については、庁内検討委員会、事務局でも検討している。立地は次回以降の提案となるが、まずは市の公有地で検討する。まずは歴史文化施設の基本方針や考え方をまとめ、それから具体的な立地も含めた事業計画、展示計画を進めていきたい。 |
| 委員　　　： | 国の天然記念物に指定されている木下貝層の近くに施設をつくると、国から補助金がもらえるのではないか。そうすると立地が先になる。 |
| 事務局 ： | ガイダンス施設については国の補助金が出るが、それには文化庁に天然記念物の保存活用計画や整備基本計画を提出し、承認を得る必要がある。今回検討しているのは木下貝層のガイダンス施設ではないため、その他の部分は市の費用で建設することになる。 |
| 委員　　　： | 計画をつくるには時間がかかることだと理解した。 |
| 事務局 ： | 現状では明確な候補地がなく、内部調整もこれからという段階である。まずは基本的な考え方、理念、事業計画等を委員会の意見を聞いて検討し、それに相応しい立地を選定するという進め方をとりたい。市の都合で申し訳ないが、ご了承いただきたい。 |
| 委員　　　： | 庁内検討委員会では、立地について検討し、進めていただけるのか。 |
| 事務局 ： | そのとおりである。関係する各課の調整もふまえて進める。 |
| 委員　　　： | 次回から立地に関する話も出てくるのか。 |
| 事務局 ： | 立地以外では管理運営の検討にも時間がかかるので、次回以降となるが、できるだけ早めに提示したい。 |
| 委員　　　： | 具体的な立地でなくても、要件を本委員会で討議することはできるか。 |
| 事務局 ： | 基本的な要件（利便性、道路との関係等）は可能な限り提示し、意見をうかがう。 |
| 委員　　　： | 印西市は新しいものと古いもののバランスがよいと言われる。私たち印西ふるさと案内人協会でも、木下を中心に古いものを案内することが多い。そういう古い場所につくるのか、ニュータウンなどの新しい場所につくるのかで、イメージが異なる。そのあたりだけでも提示してもらえるとよい。 |
| 事務局 ： | 立地については、まずは市内全域と考えていただいてよい。推薦する場所・理由を意見としていただければ参考にする。 |
| 委員　　　： | 庁内検討委員会には公園関係の担当課は入っているのか。どちらかというと博物館は公園内にあるイメージがある。 |
| 事務局 ： | 庁内検討委員会には部を代表した主管課長が入っている。都市建設部都市計画課長が、都市建設部を代表して意見集約・調整をする予定である。 |
| 委員　　　： | 公園内も立地になりえるのか。 |
| 委員　　　： | 都市計画法上、無理ではないか。 |
| 事務局 ： | 調整が必要だが不可能ではない。しかし、公園には制限があり、現在多数の利用者のある公園は難しいだろう。 |
| 委員　　　： | 末永くいろいろな人に来てもらうためには、交通アクセスは欠かせない。関心のある方は多少不便でも来てくれるが、市の施設となると来館者の裾野を広げることが大事である。市内にはたくさんの資源があるので、新施設だけを博物館とするのではなく、市にある資源全部を展示施設と位置づけ、回遊ルートをつくるとよい。そういう事例もあると聞く。広くいろいろな人に印西市の魅力に触れていただき、そこから深く探究していく、どんなに不便でも難しくても足を運んでくれる人が出てくればよい。印西市には豊富な資料も人材もあるので、良い博物館がつくれると思う。 |
| 委員　　　： | 基本計画の項目、検討の進め方はこの方向でよいか。 |
| 一　同 ： | 了承する。 |
| ９ 報告 |
| （１）先進事例の紹介 |
| 事務局 ： | ※資料2について説明 |
| 委員　　　： | それぞれの博物館の駐車場スペースはどうなっているか。 |
| 事務局 ： | 資料2にそれぞれ駐車台数を記載している。茅ヶ崎市博物館は一般車両/21台、車いす利用者用/1台、バス専用/4台整備予定。能美ふるさとミュージアムは100台、史跡公園が隣接しているため駐車台数が多い。豊田市博物館は整備段階だが、約150台を予定。大野城 心のふるさと館は284台、ただし館独自の駐車場ではなく、最寄りの公共駐車場となる。諫早市美術・歴史館は30台（うち障害者等用2台）。 |
| 委員　　　： | 資料2の中にアクセスや立地特性の項目が記載されているが、その他に特徴的なものがあるか。 |
| 事務局 ： | 茅ヶ崎市博物館は近くに市指定重要文化財を活用した茅ヶ崎市民俗資料館がある。能美ふるさとミュージアムはふるさと歴史の広場の隣接地に整備されており、周囲には史跡が多い。豊田市博物館は豊田市美術館が隣接する。大野城 心のふるさと館は市街地にある。諫早市美術・歴史館は市街地にあり学校に隣接している。 |
| 事務局 ： | 今回事例紹介した施設は、全国の数ある博物館から印西市が今後計画する施設のイメージに近いものを選んだ。豊田市博物館を除いて規模・面積も近い施設で、最新の事例や整備の方向性がわかる事例を紹介した。 |
| 委員　　　： | 今回の事例で、障がい者対応をしたものはあるか。たとえば目の見えない人への対応をしているか。 |
| 事務局 ： | 茅ヶ崎市博物館は地形を切り口とした展示を行っていることもあり、触れる立体地形模型を展示室に入る前の導入エリアに設置している。 |
| 委員　　　： | お薦めしたい事例として、道の駅と併設されている那須野が原博物館がある。道の駅の駐車場を共同で使い、同じ敷地内に設置することにより、町外の観光客に向けて、町の素晴らしさを発信できる。しかも、集客が抜群に良い。どんなに良い資料を集めても、来館者が来なくて廃館になってしまうと資料が守れないということを実感しているので、ある程度、集客を見込め、町の楽しみや誇りにもなるような施設を目指すとよい。そのためには、駐車場スペースもある程度必要であるし、立地が大事な条件である。道の駅と併設の博物館の事例を調査し、資料だけでもいただけるとありがたい。 |
| 委員　　　： | 諫早市美術・歴史館では、展示室内に自然光を入れているが、作品保護の対策はどのようにしているのか。 |
| 事務局 ： | 陶磁器のようにある程度自然光に耐性のある資料や、公開日数を限定して展示をしているようである。 |
| 委員　　　： | 壁で遮蔽しても自然光があたると熱を持ってしまうので、資料に良くないのではないか。また、照明器具はLEDを使用していると思うが暗い印象である。演出だと思われるが現代風ではない。茅ヶ崎市博物館のように全体的に明るい印象のほうがよい。 |
| 10 意見交換 |
| （１）歴史文化施設のめざすべき方向性について |
| 事務局 ： | ※資料３について説明 |
| 委員　　　： | 昨今「つなぐ」を意識している施設が多くなっていると感じる。文化と歴史をつなぐイメージである。旧来の博物館・美術館は、資料があって人が見るという資料と人がつながるイメージであるが、印西市の新施設はそれに加えて、福祉、観光、教育といったことなる分野や、過去と未来とつながるなど、縦軸と横軸のハブになる施設であってほしい。発信拠点であり、人も情報もモノも集まるようなハブ化が重要である。それには、学芸員が展示企画をするだけでなく、友の会などの応援部隊が必要である。友の会や、木下まち育て塾のようなNPOの応援を受け、年に１回文化祭が開催できれば周知も交流もできる。 |
| 委員　　　： | 「つなぐ」「つたえる」などのワードを出していくとよい。木下まち育て塾は子供たちに郷土の歴史を教えるために、小学６年生とまち歩きをしているが、子供たちを「そだてる」「はぐぐむ」「みらい」などもよいと思う。 |
| 委員　　　： | コンセプトは語呂の良さ、耳ざわりの良さが求められる。３つぐらいの言葉を重ねて、いろいろな人に伝わりやすく、いろいろな世代の人に覚えていただけるようなものがよい。細かい説明は後から、設置主旨等で伝えていけばよい。 |
| 委員　　　： | 印西大師の番外札所を巡っていて、お堂の管理をしている人に由緒や歴史をうかがうと「聞いていない」「わからない」「市役所で聞いてくれ」「印旛高校跡の施設で聞いてくれ」と言う人が多い。資料館は歴史を守り継承していく砦の役目を今でも果たしている。新しい施設もそうなってほしい。 |
| 委員　　　： | 「つなぐ」「つたえる」に加えて、「まもる」を入れてほしい。もう１つ、文化財は最初からあるのではなく、生活の中に普通のあるものに価値を見出して掘り起こすのも博物館の大きな使命の１つであるため、「まもる」だけではなく「ほりおこす」も加えたいところである。 |
| 委員　　　： | 「自宅にこんなものがあるが、どうしたらよいだろうか。子供の代になったら捨てられてしまう。」という話を聞く。そういう歴史的に価値のありそうな資料を持ち込める、身近な博物館であってほしい。 |
| 委員　　　： | 昔から旧家の代替わりで持ち込まれることはあったが、最近は団塊の世代で移り住んできた方から民具や太鼓、保温ジャー等をいただくことが多くなっている。処分に困ったら博物館に持っていくという道筋ができるとよい。当たりはずれはあるが、持ち込みで守られる資料もある。 |
| 委員　　　： | 木下交流の杜歴史資料センターのホームページに「家の建替えや家財の整理のために廃棄されてしまう古文書等があったら連絡してください。たとえば、往時のくらしがわかる写真、書類、地図、チラシ、音声、映像等でも結構です。」と掲載されている。大きな資料は保管場所の制約があり、受入が難しいのではないか。 |
| 委員　　　： | 松戸市立博物館に常盤平団地の一室が再現されているが、昭和の東京オリンピックから20年間くらいの建設ラッシュにできた日本の典型的な家屋はほとんどなくなっている。昭和の資料を大切に守っていけば、一つの展示ができるのではないか。 |
| 委員　　　： | 教育長からは「美術も」というお話があったが、美術も含むのか事務局の考えを聞かせてほしい。 |
| 事務局 ： | 事業名を「歴史文化施設」としたのは、博物館、美術館、郷土資料館といった名称にこだわらずに施設を検討していこうとした意図がある。寄贈された絵画資料も市が所蔵しているため、そうした美術品を展示できるような展示室もあったほうがよいと考えている。諫早市美術・歴史館に近いイメージである。 |
| 委員　　　： | 印西市にまつわる美術品というと、香取秀真の作品がある（メタルアートミュージアム光の谷は休館になり県立美術館に収蔵されている）。そのほかに、印旛村の田中路人の作品（印西市役所のロビーに作品がある）もある。美術品がいろいろなところに散らばっていて、なかなか紹介できない。 |
| 委員　　　： | 美術館、博物館以外の名称もありえると思う。 |
| 事務局 ： | 博物館法では、美術館、水族館等も含まれるので、総称して「博物館」や「ミュージアム」などとしてもよいのではないか。絵画資料を所有している場合は「美術館」として整備していくのだと思うが、印西市の場合はメインは古文書や考古資料であり、そちらを中心とした展示になるだろう。 |
| 委員　　　： | 「つなぐ」とは、過去を現在検証して、未来につないでいく、そこには子供たちへの教育、伝承も含まれると受け取っている。未来に向かっていくということは皆さん共通の認識であると思う。あとは友の会やハブが大事なところである。博物館は情報を発信しなければ、ただの箱である。情報を集め、市民のために発信していくことは絶対にやらなければいけない。こういう情報がほしいという市民の要望に応えていくことも博物館の役割である。また、友の会は基本的に設けたほうがよい。千葉県の県立博物館は当初すべて友の会をつくったが、さまざまな事情で現在残っているのは県立美術館と県立関宿城博物館のみである。木更津の旧上総博物館（現在は木更津市郷土博物館）では友の会で図録の販売の他、博物館講座の講師を担っていた。友の会があれば、博物館側に近いボランティアとなる。 |
| 委員　　　： | 友の会は核になる学芸員が要であり、地域のことを把握している学芸員が育ち、その学芸員が中心となり声掛けし、人と人との信頼関係でだんだん構築していく。それが無いうちに友の会を立ち上げるのはなかなか難しい。友の会をつくると決めても、具体的な取組は急がなくてもよい。 |
| 委員　　　： | 手伝いたいというボランティアを組織化していけばよい。 |
| 委員　　　： | 小学校の子供たちがバックアップするしくみはあるのか。 |
| 委員　　　： | 学校自体が教員も子供もが少なくなっていて難しい。ただし印西市は児童数が多い。 |
| 委員　　　： | 市内には小学校が22校ある。児童数が多く、1,000人以上の小学校が２校あり、１学年６クラスもある。片や40人しかいない小学校もある。 |
| 委員　　　： | 「利用者と協力」することが重要である。茅ヶ崎市博物館の事例では「市民をはじめとする利用者と協力して活動する」とある。豊田市博物館の事例でも「あつめるプロジェクト」がある。資料は集めて終わりではない。たとえ文化財に指定されても、死蔵されていることもある。資料収集する段階、活用する段階で、市民と協働することが望ましい。学芸員は大変であるが、市民と一緒に収集・整理・活用できるとよい。 |
| 委員　　　： | 博物館にはいろいろなシステムがあり、市民が集まって研究する場合、まずは博物館教室を開き基本学習をし、博物館の外に出ていく。たとえば川崎市の事例では、ツバメがいつ来たか、どこに来てるかマッピングして、博物館でまとめて発表する。そういう講座から入っていくパターンがある。開館後にやることはたくさんあるが、学芸員が計画に書いてないからやらない、できないというのは困るので、できるだけ計画・博物館のコンセプトに書いておくことが重要である。 |
| 委員　　　： | 子供からシニアまで市民が集えるような場所であってほしい。古文書資料を読むお手伝いをしたことがあるが、講座を開くとボランティアが増えて、資料整理も進む。そういうシステムづくりをしていただくと、研究熱心な向学心のあるシニアが多数いるので人材が育つ。 |
| 委員　　　： | 印西市には最近、Googleなどの外資系の会社が来ている。企業の人にも来館してもらい、印西市の特徴や見どころを伝える工夫もあればよい。英語表記はもちろん、展示方法も含めて印西市のハブになるようにしてほしい。 |
| 委員　　　： | グッドマンがビジネスパークをつくった時に、ホール施設で印西市の歴史についてプロジェクションマッピングをやってほしいという依頼があった。コロナの影響で実現しなかったが、歴史を教えてほしいという気持ちは持っている。 |
| 委員　　　： | 市のホームページの中に、同じ様式で博物館も組み込まれているケースが多い。それは費用の問題か。 |
| 事務局 ： | 同じシステムを使っているため同じ形式になると考えられる。 |
| 委員　　　： | 将来的に博物館のデータベースも、インターネット上でのアクセスが可能な部分はオープンにしていくと思われる。それを考えると、市のホームページから独立していたほうがよいが、それは市の考え方による。 |
| 事務局 ： | ご意見をいただければ、基本計画策定の検討していく。 |
| 委員　　　： | 研究熱心で調べるのが得意な人は、国会図書館等のデジタルアーカイブで資料を見つけてくる。デジタルでアーカイブを公開することは重要である。 |
| 11 閉会　 |
| **１０．その他** |
| 委員　　　： | 今年は郵政150周年である。木下が印西市の郵便発祥の地で、明治５年に郵便取り扱いが始まった。企画展「木下郵便局と吉岡家三代」を10月16日から開催するので、お時間があればご来場いただきたい。 |
| 【会議資料】・第1回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 次第・（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会　設置要綱・委員名簿・資料１-１ （仮称）印西市歴史文化施設基本計画項目（案）・資料１-２ （仮称）印西市歴史文化施設基本計画の検討の進め方（案）・資料２ 先進事例・資料３ 歴史文化施設のめざすべき方向性－他館の基本理念･基本方針－・追加資料　新たな歴史文化施設の必要性 |

令和4年度第1回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会会議録は事実と相違ないことを承認する。

　令和4年11月22日

（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会

会議録署名委員　　榎　美香